



※「いっぺかだれや」は「みんな集まれ！語ろう！」という意味の浜益の言葉です。

発行日：平成28年11月1日

発行：石狩市浜益区地域おこし協力隊

増毛山道、ついに全面開通！

ついに、10月16日（日）、増毛山道が全面開通しました。

増毛山道の再生作業は、2008年からNPO法人「増毛山道の会」が中心となって進められ、これまで増毛町側の16キロが開通していました。そして、今年、石狩市側（幌～雄冬山付近の4.4キロ）の再生作業が進められていました。

増毛山道とは・・・

増毛山道は、浜益区幌から増毛町別荘までの27キロで、1857年、今から150年ほど前に増毛の豪商、伊達林右衛門が自費で開削しました。その後、昭和16年ごろに道の途中にあった駅通（郵便物を交換する場所）が廃止され、山道を使う人がほとんどいなくなって道は荒廃してしまいました。

今年の石狩市側での山道再生作業は6月から始まりました。10月の開通までに延べ180人以上の方々が見守り作業に協力されたそうです。私たちも1日だけお手伝いに行ったのですが、まずは笹刈りをする場所に着くまでに約2時間半の登山。その後に4時間ほどの笹刈り作業を行って進んだのは200メートル、というような非常に地道な作業。渡邊千秋さんをはじめとするNPO法人「増毛山道の会」の方々、石狩市、石狩消防署、体育協会、石狩振興局等、笹刈り作業に尽力された方々には本当に頭がさがります。



増毛山道開通に向けた最後の10mを笹刈りする渡邊千秋さん（中央）



私たちが笹刈りのお手伝いに行った際の写真。笹でいっぱいだったところが笹刈りによって歩ける道になります。

増毛山道を新たな“浜益の宝”に！

増毛山道の増毛町側では、年に何回か、トレッキングツアーが開催され、すぐに定員に達するほど人気になっています。増毛山道の全線開通でついに浜益から増毛までの道を通して歩くことが可能になりました。

増毛山道の途中には、浜益御殿や雄冬山・浜益岳などの美しい山々の風景が楽しめたり、また浜益御殿付近には北海道内で最も標高が高い場所にある一等水準点（明治時代に測量がされた際に埋め込まれたポイント）もあり、見どころがいっぱいです。

今回、この増毛山道の途中、浜益御殿までの登山を浜益女子登山部で楽しみました！引き続き裏面をご覧ください。



増毛山道の途中、雄冬山付近から見る浜益岳



浜益御殿山頂に残る一等水準点



浜益女子登山部、浜益御殿に登ってきました！



浜益女子登山部では、5月の黄金山に続いて、10月15日(土)に浜益御殿に登ってきました！今回の参加者は9名のみなさん。小学生から70歳台の方まで、幅広い年齢層のみなさんが参加してくれました。前回に続き、ナビゲーターは渡邊千秋さん。また、増毛山道の笹刈りにも尽力された石狩市企画課の上窪主幹がフォロースタッフとして参加してくれました。当日は晴天に恵まれ、楽しい登山となりました。当日の様をお伝えします。

浜益御殿は標高1037mの山。これまでは山道が整備されていなかったため、残雪のある時期にしか登ることができない山でした。そのため、参加者のみなさんは今回初めて浜益御殿に登るといふばかり。御殿からどんな風景が見れるのかなとワクワクドキドキしながら山頂を目指します。



冬の厳しい雪のなかで生きている木は横に伸びているものが多く、変わった形の木が多くありました。



浜益御殿は増毛山道の一部でもあるので、黄金山のように険しくはなく、緩やかな道を長い時間歩くという山登りです。それでも、途中には横たわる大木があったり、また笹を刈った後が足にささったりするので、それらに注意しながら、約3時間ほどかけて全員元気よく山頂にたどり着きました。



浜益御殿山頂からの眺め（いくつかの写真をくっつけています）。右手奥には愛冠岬も見えます。



チョコフォンデュを頬張る女子たち

山頂からは、西暑寒岳や浜益岳などの暑寒別岳連峰の山々や、遠く海も見ることができます。山頂から海が見えるという光景、浜益らしいですね。

山頂ではお弁当を食べた後、恒例の山ごはんとして、「チョコフォンデュ」を食べました。お菓子や果物にチョコをつけるというデザート系メニュー。素晴らしい景色を見ながらデザートをいただくなんて、とっても贅沢～♪

浜益女子登山部



ご参加いただいたみなさん、
ありがとうございました！！

